

函館市指定有形文化財

アイヌ風俗12ヵ月屏風

四月 炉辺団らんの図

平沢屏山筆 宮原柳僊模写

アイヌ風俗12ヵ月屏風の後半双が新田寛一氏より寄贈され、函館博物館に所蔵されていたが、平塚常次郎氏の寄付金により、前半双を宮原柳僊氏に依頼し、模写して12枚揃えることができた。

この「四月の図」は炉辺で煙草を吸う主人とアツシを織る木の皮を紡いでいるその妻、その側で子供が遊んでいる。炉には鍋がかかり、その上には乾した魚などをぶらさげている図で、アイヌの屋内の日常生活を窺うことのできる貴重な資料である。



昭和48年度予算決まる！

“総 額 37,971 千円、

市立函館博物館の昭和48年度予算が次のとおり決定した。

本年度予算の主な点をひろってみると、第1に当館最大の事業である春の特別展「松前波響アイヌ絵展」がある。この特別展は、松前藩主寛政の5男として生まれ、後に円山応挙に師事し、北海道の応挙といわれた波響のアイヌ絵のうち、光格天皇の天覧に供した、12人のアイヌ酋長を描いた夷酋列像を中心として、粉本・模写などを展示する。

その2は、最近の土地開発の異常なまでの進歩により、埋蔵文化財を包含している遺跡の破壊が急速に行なわれようとしている。このため市内および近郊で遺跡の発掘が頻繁に行なわれるようになり、その発掘資料が当館に搬入され収蔵庫に収納していたが、資料が山積した状態で、これ以上の収蔵が不可能になったため、これらを整理する考古資料整理費が200千円予算化されたこと。

その3には、昭和44年高川金次氏より寄贈を受けた北太平洋の貝類コレクション3,120点を自然分類方式による整理作業を行なう北太平洋貝類整理費200千円が計上された。この整理によって現在まだ発見されていない新種の貝が見つかる可能性が充分ある。

第4として、館内の展示資料を網羅した展示目録を印刷刊行する予定で、研究者や市民の利便に供することができる。

以上が本年度新規に認められた事業である。

なお、従来からの継続事業として、本年度で一応完結する「函館戦争資料調査事業」、昭和50年度で終了予定の「函館市内埋蔵文化財対策調査事業」、市民の教養向上に資するための各種講座、科学教室開催費などは、昨年度当初予算額よりアップされたので、より充実した事業内容となる。

款 教育費 項 社会教育費 目 博物館費

(単位 千円)

	函館戦争資料調査費	埋蔵文化財対策調査費	考古資料整理費	北太平洋貝類整理費	出版刊行費	市民講座開催費	科学教室開催費	維持補修費	その他の委託費	特別展「松前波響」費	アイヌの生活用具コレクション購入費
共 計										36	
経 費		142	33	13						446	182
人 員 費				13		42	26			20	45
燃 料 費	60	14		18			2			120	339
需用費	10	89	54	26	179		2	130	1,236	253	
消耗品費	10	34	17	26			2			250	45
燃料費										271	
食糧費										6	17
印刷製本費		55	37		179					60	191
光熱水費										629	
修繕費								130		20	
役務費		17			21	8		150	329	89	
通信運搬費		17			21	8			327	65	
広告費										24	
手数料								150		2	
委託費									864		
使用料及び賃借料		10							11	5	
原材料費								20	10	12	
備品購入費		28	113	130					150	75	4,000
負担金補助及び交付金											
合 計	70	300	200	200	200	50	30	300	3,222	1,000	4,000

(庶務係長：時田可生)



200年前北海道が生んだ最高の画家

松前波響 アイヌ絵展

夷酋列像12枚の内
イコリカヤニの像
＜部分＞

期 間：4月29日→6月10日（期間中無休）
会 場：市立函館博物館本館（函館公園内）
観覧料 大人100円 小中学生50円
団体20名以上 （大人80円・小中学生30円）

研究と資料

市立函館博物館沿革史 (その4)

<開拓使東京出張所内仮博物館> (3)

北方民族資料目録

明治8年から開拓使廃止まで、東京芝公園、増上寺旧方丈跡で、一般に公開されてきた仮博物館は、現在の博物館法の規定からすれば『我国最初の博物館』と考えられる。しかし残念ながら仮博物館の完全な資料目録は現在私らには目に触れることが出来ない。わずかに開拓使事業報告、明治11年開拓使一覽等に、東京仮博物館の資料として、動物・228点、植物・721点、鉱物・82点、製品・459点とあり、その製品の部に土人衣服・12点、同靴類、8点という記載がある。

番号	品目	員数	産地	受入月日	献送人名
①	帽子 (土着、カシヤ)	1個	樺太	明治17.8.	玄武丸、 ゼ・シユミット
②	煙草入 (タンバコ、オフ)	4個	日高国静内		
④	煙管 (但し木にて作る)	1本	" "		
6	火打鎌	3個	" "		
7	火打石	3個	" "		
8	火打袋	6個	" "		
9	鹿笛	5個	" "		
10	糸巻	5枚	樺太		
13	油器 (但し熊の胆袋にて作る)	1個	日高国静内		
⑭	耳環 (ニンカリ)	1組	" "		
15	手拭掛	1個	" "		
⑰	飯匁 (シトベラ)	1個	石狩国石狩		
18	采箸 (ベラ)	1個	" "		
24	風捕器	1個	根室国根室		
25	自在鉤 (シュニー)	2本	" "		(破損1個)
30	小刀 (マキリ)	1本	" "		
32	小刀鞘 (女子の用いるもの)	4本	" "		
③③	楽器 (カー)	2個	胆振国		
34	蝦夷錦陣羽織		" "		
③⑤	背負繩	3本	" "		
③⑨	鉤 (クヅカ)	1個	" "		
④①	櫛具 (セケ)	1個	" "		
④①	櫛 (チーシマ)	1足	" "		
42	簪 (ユケリ)	1足	" "		
43	鮭皮簪 (ケリ)	1足	" "		
44	皮紐 (トナリ)	1本	千島国択捉島		
48	弓矢	4本	石狩国		
62	鷺羽の羽織	1枚	釧路国厚岸		
⑥③	櫛 (チーシマ)	1個	日高国静内		高橋直孝
⑥④	草靴 (ケリウシベ)	1足	石狩国		" "
⑥⑤	草靴	1足	根室国		" "
67	衣 (但しエトビリカの羽根 を以て作る)	1枚	千島国古守島		
⑥⑧	長靴	4足	千島国		
69	帽子	1個	" "		
70	毛手袋	1個	" "		
71	衣 (白革製)	1枚	カムチャッカ		
72	雨衣	1枚	千島国古守島		
73	毛衣	3枚	カムチャッカ		
74	小児服	1枚	" "		

市立函館図書館に『明治23年4月1日現在、博物館陳列品其他越品調書』という写本がある。これは明治12年5月に開館した開拓使函館支庁仮博物館が、函館県博物館と改称され、それが北海道庁に引き継がれたさいに転記された当館の資料目録である。この目録の歴史之部・現代に計142点の北方民族関係資料が、受入月日、採集地、解るものはその土名、寄贈品はその寄贈者名を付して列記されている。この目録によって、明治14年廃止のさい、東京仮博物館から函館に移管になった旧東京仮博物館の北方民族資料目録を再編してみる。

75	小児胸掛	1枚	" "		
76	小児帽	1個	" "		
77	小児用帯	1本	" "		
78	食器	3個	千島国古守島		
79	長頭巾	1個	千島国新知島		
80	毛皮帛	1個	" "		
81	吠	1個	" "		
82	海獺鼠網	1枚	" "		
83	半靴	4足	カムチャッカ		
84	股引	1足	" "		
85	靴下	1足	" "		
86	靴物	2枚	千島国		
87	革舞絆	1足	" "		
88	靴	1足	" "		
90	櫛	2個	カムチャッカ		
92	海獺船	1艘	千島国新知島		
93	櫓	3本	" "		
(三本、海獺船附属モノ)					
94	海獺漁具	5個	" "		
95	弓矢	4本	" "		
96	吠	1個	" "		
97	櫓 (但し小切を入れるもの を云う)	1個	千島国古守島		
98	行厨	1個	" "		
104	茶台	1個	千島国択捉島		
⑩⑦	アッシ織物	3段	根室国根室		
⑩⑧	アッシ織衣 (ミアンベ)	4枚	釧路国厚岸		
⑩⑨	アッシ帯 (クッチ)	2本	根室国根室		
⑪①	舞絆 (キナホシ)	2足	釧路国厚岸		
⑪②	頭巾	2個	" "		
112	鉢巻	1本	根室国根室		
⑪③	樹皮製前垂	1枚	" "		
⑪④	頭巾	1個	" "		
⑪⑤	樹皮製舞絆	1足	" "		
⑪⑥	土人納屋雛形	2個	日高国静内		
⑪⑦	土人家屋雛形	2個	" "		
⑪⑧	雪車雛形	2個	カムチャッカ		
⑪⑨	雪車雛形	3個	日高国静内		
⑫①	海獺船雛形	1個	千島国新知島		
⑫②	" "	1個	" "		
123	" "	1個	" "		
⑫④	海船雛形	1個	日高国静内		
⑫⑤	" "	1個	" "		

番号品目員数産地受入月日献送人名

以上が明治23年の目録から類推して作成した東京仮博物館の民族資料目録であるが、番号は23年の目録番号・受入

月日の明治17年8月は東京仮博物館の資料を受入れるため、函館県が新たに、函館公園内に第二博物館を新設して開館した明治17年8月12日の略である。また番号に丸の付した資料は一部あるいは全部現在市立函館博物館に伝えられている。なお産地・千島国占守島・新知島・カムチャツカとある資料は、明治8年および9年に黒田開拓使長官および時任、長谷部氏等が現地で採集した貴重な資料である。(学芸係長：姫野英夫)

最近受入れた資料

- ◇つば 1個
土器片・石器(札内遺跡) 1括
土器片・石器(蛇内沢遺跡) 1括
【沢谷哲夫氏寄贈・上磯郡木古内町札内532】
- ◇いづめ(飯詰)
馬車揚器
笹竹の箕
いも掘り鉤
竿秤
【井田孝雄氏寄贈・函館市日吉町3-45-11】
- ◇3枚重と端絆 1組
樺太の植物標本 200点
樺太庁30年史 1冊
【木村フミ氏寄贈・函館市柏木町1-9】
- ◇土器・石器
【岡政彦氏寄贈・むつ市横町2-10-28】
- ◇旧日本軍樺太の写真 6種類
【納谷忠久氏寄贈・亀田郡七飯町本町288】
- ◇千寿蘭
レスグラ
【佐藤哲雄氏寄贈・函館市柏木町8-25】
- ◇洋剣(ローマおよびウィーンで購入) 2振
【平田光夫氏寄贈・函館市堀川町8-6】
- ◇樺太・千島出土品
【馬場節氏寄贈・東京都豊島区上池袋2-25-3】
- ◇貝類(アラスカプリストル湾の貝類) 36種87点
【田口武光氏寄贈・函館市堀川町30-17】
- ◇ニューギニアの矢 1本
【山田豊氏寄贈・函館市松陰町7-4】
- ◇非常持出整理箱(大町々々で使用・明治時代) 1個
【中島康三郎氏寄贈・函館市宝来町8-11】
- ◇スコット工場の解体物 1括
【函館公海漁業協寄贈・函館市大町13-9】

博物館日誌抄 (47.12.1~48.1.31)

- 47.12.1 日本鮭鱈漁業協同組合専務理事斎藤三郎氏来館(本館)
- 〃 道立開拓記念館研究職員原田富彦氏外4名館内見学(本館、分館、資料館)
- 6 市営バス(交通局)のバスガイド20名館内見学(本館)
- 〃 日本国有鉄道北海道総局共済短期係長宇高順一氏他2名来館(本館)
- 7 道立教育研究所主任山崎長吉氏来館(本館)
- 8 防衛庁将官一行18名が五稜郭戦争研究のため来館(分館)
- 14 非常警報器取付工事開始、12月22日完了(本館)
- 16 市民講座が集会室にて行なわれる。講師宗像和彦、乳井幸教の両氏(本館)
- 19 函館西警察署島脇警備係長、大和田巡査長の2名防犯の件にて来館(本館)
- 21 文化庁野口技官が資料調査事務打合せのため来館(本館)

入館者統計

昭和47年度常設展示 (48.1.5~48.3.31)

昭和47年度常設展示 (48.1.5~3.31)

月別	館別 区分	本館		分館		郷土資料館		総計			
		個人	団体	個人	団体	個人	団体				
1	大人	109		109	644	57	701	113	2	115	925
	小人	183		183	203		203	67	9	76	462
	計	292		292	847	57	904	180	11	191	1,387
2	大人	106		106	539	23	562	117	11	128	796
	小人	99		99	85		85	42		42	226
	計	205		205	624	23	647	159	11	170	1,022
3	大人	293		293	1,883		1,883	185	1	186	2,362
	小人	262	29	291	480		480	87	32	119	890
	計	555	29	584	2,363		2,363	272	33	305	3,252
累	計	5,862	8,775	14,637	55,634	16,233	71,867	3,043	743	3,786	90,290

昭和47年度常設展示 無料入館者

無料入館者 (本館日曜日のみ)

区 分		一 般		団 体		総 計
月	大 人	小 人	大 人	小 人		
4 月	686	607	182		1,475	
5 月	特 別 展 開 催 期 間					
6 月	310	200	45	61	616	
7 月	432	239	235	71	977	
8 月	437	226	165	4	832	
9 月	365	216	200		781	
1 0 月	359	294	219	78	950	
1 1 月	145	232	214		591	
1 2 月	78	171			249	
1 月	119	356			475	
2 月	51	90			141	
3 月	176	162	9	5	352	
累 計	3,158	2,793	1,269	219	7,439	

- 28 御用納め
- 48.1.4 御用始め
- 11 北海道放送「幻の共和国」製作にかかる資料撮影が行なわれる(分館)
- 14 京都市新選組研究家石田孝喜氏来館(分館)
- 16 函館市内埋蔵文化財対策調査の資料整理を開始(本館)
- 〃 銭亀古銭報告書の作成作業開始(本館)
- 17 北海道総務部領土復興北方漁業対策本部大寺主査他1名来館(本館)
- 19 レリーフ巧芸画保管室の整備作業が行なわれる(本館)
- 23 NHKへ氷切り用の器具5点貸与する、24日返還(資料館)
- 25 消防署から防火査察署員が巡回に来館(本館、分館、資料館)
- 26 戸井町教育長堀田久善氏来館(本館)
- 〃 北海道大学文学部研究生ゲイリー・クラーク・サラ氏他1名来館(本館)
- 27 第3回冬の公宴と博物館であそぶ会が開催、28日の2日間(本館)
- 〃 函館市民美術協会事務長島田徹郎氏来館(本館)
- 28 亀田市杉本要作氏から朝陽鑑引揚品5点の資料が寄贈になる(分館)

Hakodate City Museum News

SARANIP—サラニッ— No.7 1973.4.1.発行
編集・発行 市立函館博物館(T E L 0138-23-5480)
北海道函館市青柳町・函館公園内(〒040)